

K 危険予知トレーニングで事故ゼロへ！ 雨天時におけるバイクの動き

Y 事故を未然に防ぐために、予測される危険や危険を避けるための運転について考えてみましょう。



Q

どのような危険があり、どういった運転をする必要がありますか？



交通状況

配送サービス(出前・宅配など)の需要が高まり、バイクが多くなっています。

■雨が降り続く中、配送先に向かっていきます。

■坂の下、やや鋭角になっている丁字路交差点に差しかかりました。右前方から原付バイクが左折しようとするのが見えます。

A

このような危険が！

✓ 車線をはみ出したり転倒した原付バイクとの接触

・原付バイクは下り坂では平坦よりも速度が出やすく、鋭角に左折するために車体を大きく傾ける必要があります。不十分だと車線をはみ出してくる可能性があります。

・濡れたマンホールは滑りやすく、車体を傾けたまま原付バイクのタイヤがその上に乗ると、滑ってふらついたり、最悪転倒したりして、自車の前に出てくる可能性があります。

・原付バイクの運転者は「早く商品を届けたい」、「なるべく雨にぬれたくない」という心理が働き、交差点前での十分な減速や左右の安全確認をせず、飛び出してくる可能性があります。



このような運転を！

- ✓ 交差点ではバイクや自転車が出てこないか、「カーブミラー」や「目視」で確認。
- ✓ 相手に急ハンドルや急ブレーキ操作をさせないように、センターラインをはみ出すといった圧迫感を与える運転をしない。
- ✓ バイクや自転車は「車体を傾けて曲がる」という特性を理解し、自車への影響を予測。